

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人豊橋文化振興財団	
施設名	穂の国とよはし芸術劇場	
内定額	4,582	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		350	349
年間事業本数（※1）	主催事業	45	39
	公演事業	24	15
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	8	8
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	普及啓発事業	13	16
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	283	290
	ホール名：主ホール 座席数：771	126	136
	ホール名：アートスペース 座席数：266	157	154
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	53,299	43,894
	公演事業	18,993	11,037
	人材養成事業	2,874	2,413
	普及啓発事業	31,432	30,444
	その他 内容： 記入してください	0	
	貸館事業入場者・参加者数	133,446	137,643
	その他 内容： 共催事業	2,826	1,003
	計	189,571	182,540
施設の利用率(%)		57.7%	54.3%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	24	57	18,993	64.6%	15	3	2	2	2		
	共催・提携公演（※2）	3	4	2,826	91.2%	3						
	貸館公演（※3）	143	203	52,759	70.0%	16	53	18	12	7	0	37
	計	170	264	74,578								
令和6年度	主催公演（※1）	15	28	11,037	77.3%	8	3	0	1	1	0	2
	共催・提携公演（※2）	2	3	1,003	84.8%	2						
	貸館公演（※3）	131	168	78,625	80.0%	26	57	16	1	10	1	20
	計	148	199	90,665								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数	入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	①高校生と創る演劇「Jorney Over the Rainbow-ドロシーとワタシ」に初めて参加した高校生を対象に、応募動機を調査し、過去の「高校生と創る演劇」の観劇をきっかけに応募した割合を調査する。 ②高校生と創る演劇「Jorney Over the Rainbow-ドロシーとワタシ」に参加した高校生を対象に、上演後に実施するアンケート調査において「次回以降も参加したい」「自分は参加できないが知人に勧めたい」割合を調査する。 ③高校生と創る演劇「Jorney Over the Rainbow-ドロシーとワタシ」及び若手音楽家育成事業「ワンコインコンサート」の地元新聞社に取り上げられる件数を調査する。 ④ワークショップファシリテーター養成講座を受講した受講生の受講後のアンケート調査において「成果があった」「期待以上の成果があった」割合を調査する。	①初めて参加したキャスト・スタッフ参加者のうちの15%以上 ②アンケートで高評価を得る(「次回以降も参加したい」「自分は参加できないが知人に勧めたい」の回答が75%以上) ③新聞記事として各事業2回以上取り上げられる ④アンケートで高評価を得る(成果があった」「期待以上の成果があった」の回答が70%以上)	①43.8% (初めて参加した高校生16名中、過去の「高校生と創る演劇」を観劇した人数:7名) ②「周囲の知人に積極的に進めたい」「どちらかというに進めたい」の合計 94.7% ※アンケートの質問内容は見直しを行った。 ③「高校生と創る演劇」の新聞記事掲載回数:7回 若手音楽家育成事業「プラットフォームコンサート」の新聞記事掲載回数:1回 ④ワークショップファシリテーター養成講座の受講後のアンケート調査において「成果があった」「期待以上の成果があった」の合計 100%	高校生と創る演劇「Jorney Over the Rainbow-ドロシーとワタシ」 参加した高校生のうち94.7%が「次回も参加したい」「知人に勧めたい」と回答しており、事業への高い満足度がうかがえる。この結果は、演劇の創作過程や発表の場が、高校生の心を大きく動かしたことを示しており、今後も同様の事業を継続・発展させることの重要性を再認識するとともに、劇場に来る若年層の観客の開拓につながったのではないかと考える。 若手音楽家育成事業「プラットフォームコンサート」 新聞掲載は目標を達成できなかったが、過去の「プラットフォームコンサート」出演者によるステップアップコンサートを実施し、4回の新聞記事掲載回数を得ており、若手音楽家の育成、基盤としての「ワンコインコンサート」の効果は実感できていること、それに伴い「ワンコインコンサート」自体の認識向上にも繋がっている。引き続き広報を強化していく。 「ワークショップファシリテーター養成講座」 全受講生が「成果があった」「期待以上の成果があった」とアンケートに回答しており、非常に高い評価を得た。本講座は11年間にわたって継続実施しているものであり、その経験の蓄積が確実に質の向上につながっていると考えられる。今後も舞台芸術教育の担い手育成のため、より実践的な内容を強化し、修了生の活躍を支えていくことが必要と考える。 総合評価 人材養成事業全体においては、各事業が設定した目標を達成し、地域の高校生や若手音楽家に対して舞台芸術に関わる貴重な機会を提供することができた。これにより、地域に根差した人材育成の基盤づくりに大きく貢献できたと評価している。		
普及啓発事業						

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・「高校生と創る演劇」シリーズは、2014年より継続して実施しており、地域の高校生たちの演劇創作に関わる機会の提供している。継続していく中で、参加した高校生が卒業後、芸術系の大学への進学を選択することで舞台芸術に関わることを継続したり、高校生と創る演劇で知り合った演出家の劇団に入団した事例もあり、舞台芸術に携わる人材養成に寄与している。 ・2014～2015年度に若手音楽家育成事業「プラットフォームコンサート」に出演した豊橋市出身のピアニストは、担当職員と対話をしながらコンサートの企画を進めていく体験を通じて、自らの音楽性と自身の興味を改めて認識し、劇場という場での総合芸術の可能性からジャンルを超えた人脈も広げ、2024年度に国内外で活躍するベテランのファッションデザイナーのトークと自らの演奏を掛け合わせた独創的な企画を立て、公演を実施するに至った。 ・2023～2024年度に若手音楽家育成事業「プラットフォームコンサート」に出演したピアノデュオは、本コンサートでの・演奏経験を経て活動の幅を広げ、スペシャルヴェニュー国際音楽コンクール入賞者記念コンサートでニューヨークのカーネギーホールで演奏の機会を得た。
--

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①高校生と創る演劇「Jorney Over the Rainbow-ドロシーとワタシ」に参加した高校生を対象に上演後に実施するアンケート調査において、「公演に参加しての満足度」を調査する。 ②若手音楽家育成事業「ワンコインコンサート」の来場者を対象にアンケート調査を行い、居住地が「豊橋市内」「東三河地域」の割合を調査する。 ③ワークショップファシリテーター養成講座の受講生・過去の修了生が、豊橋市内の小学校・中学校で実施しているアウトリーチワークショップに、インターン・コーディネーター・アシスタントとして参加した学校数を数える。 ④穂の国とよはし芸術劇場の会員制度「プラットフレンズ」の会員数。 ⑤貸館利用者に対してアンケート調査にて「施設の使いごちに関する総合的な満足度」を調査し、「とても満足」「満足」の割合を調査する。	①アンケートで高評価を得る(「とても満足」「満足」の回答が75%以上) ②アンケート回答者のうち、「豊橋市内」「東三河地域」の回答率が75%以上 ③目標値:10校 ④「プラットフレンズ」令和6年度目標会員数:45,895人 前年度比5%増 ⑤アンケートで高評価を得る(「施設の使いごちに関する総合的な満足度」として「とても満足」「満足」の回答が80%以上)	①「とても満足」「満足」の回答の合計 100% ②「豊橋市内」「東三河地域」の割合 75.6% ③実施校:20校 ④@プラットフレンズ 令和6年度会員 46,900人(前年度比7.83%増) ⑤「とても満足」「満足」の回答の合計 83.7%	高校生と創る演劇「Jorney Over the Rainbow-ドロシーとワタシ」 非常に高い満足度を得ており、引き続き事業を継続していくエビデンスとなった。 若手音楽家育成事業「ワンコインコンサート」 来場者のうち豊橋市内および東三河地域からの来場者が75.6%を占めており、地域住民への文化芸術鑑賞機会の提供に確実に寄与している。 ワークショップファシリテーター養成講座 学校数は目標値の2倍となった。学校側からの申込件数も増えていることから継続して実施していくと共に、職員の人的資源問題も踏まえつつ実施学校数を調整していきたい。 劇場会員制度「プラットフレンズ」 穂の国とよはし芸術劇場の会員制度「プラットフレンズ」の会員数は公演情報やワークショップ等の情報をいち早く受け取れるメールマガジン登録と連動している。コンスタントな舞台芸術作品の上演および参加型事業の実施と、継続的な情報発信が、会員増加の要因と考える。 貸館利用者の満足度 貸館利用者の満足度は目標の80%を超える高評価であった。一方で、満足に至らなかったアンケートでの指摘、例えば利用申込時の煩雑さなどについて、設置自治体と協議しながら検証と改善を進めていく。 総合評価 すべての評価指標において目標を上回る結果となっており、地域に貢献する文化芸術活動拠点として、着実な成果を挙げている。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①高校生と創る演劇「Jorney Over the Rainbow-ドロシーとワタシ」の入場者数のうちの高校生以下の入場割合をチケット購入情報から調査する。 ②若手音楽家育成事業「プラットワンコインコンサート」の来場者を対象にアンケート調査を行い、「60歳以上」の割合を調査する。 ③主催事業において、障がい者向けの情報保障(字幕タブレット、舞台説明会、台本貸出、FM補聴器提供など)の実施回数を調査する。 ④障がいの有無に関わらず参加できる事業(ワークショップなど)の回数を調査する。	①全入場者数のうち、高校生以下の入場率が25%以上 ②全体の50%以上 ③実施回数 年間 4回 ④実施回数 年間 1回	①高校生以下のチケットの割合 35.1% ②「60歳以上」の割合 59.9% ③障がい者向けの情報保障 年間19回 ④障がいの有無に関わらず参加できる事業 年間3事業	高校生と創る演劇「Journey Over the Rainbow -ドロシーとワタシ」 チケット購入情報に基づく調査の結果、高校生以下の入場割合が35.1%に達し、目標の25%を大きく上回った。他の事業においては一桁台であることから、当事業において若年層が積極的に劇場に足を運び、舞台芸術に触れる機会が着実に広がっていると捉えている。今後はさらに多様な若者層へのアプローチを検討・強化し、継続的な参加や観劇につなげていく。 若手音楽家育成事業「プラットワンコインコンサート」 来場者の約60%が60歳以上という結果となった。これは、来場者が出演者の知り合いだけではなく、地域の高齢世代が優れた若手音楽家による演奏を楽しみに演奏する機運が生まれていることを示している。また、来館を機会にコンサート以外の実演芸術に触れるきっかけ作りにもなっている。同様の取り組みとして、無料で気軽に鑑賞できるコンサートも実施しており、小さな子どもをもつ子育て世代を中心に劇場に足を運ぶ機会を増やしており、ニーズに合わせた事業展開が重要といえる。 情報保障 主催事業における障がい者向けの情報保障の実施回数は、当初の目標を大幅に上回る回数を実施した。これは、演劇公演や映画上映など招聘事業において情報保障サービスを積極的に活用するとともに、音声読み上げプログラムの作成や手話通訳、要約筆記の手配・コーディネート劇場職員自らが行う体制を整備したことによるものである。この取り組みにより、限られた予算の中でも多くの機会を提供することが可能となった。 総合評価 すべての項目において目標を達成することができた。若年層、高齢層、情報保障による障害のある方へのアプローチを通じて、多様な市民に開かれた事業展開を行っている。障害のある方に向けた情報保障含め、一過性の取組では無く、継続的に実施していく。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・これまで当劇場の主催事業では、視覚や聴覚に障がいがある方のための鑑賞サポートに継続的に取り組んできており、若手音楽家育成事業「プラットワンコインコンサート」でも、チラシや当日パンフレットの音声読み上げ対応を始めた。その結果、視覚に障がいのある方が自主的にチケットを購入し、3～4名のグループ(全員視覚に障がいあり)で定期的に来場し、音楽を鑑賞するようになった。
・豊橋市の取り組みである、誰もが舞台芸術作品を鑑賞する機会を提供するための招待サービス「善意のシート」を活用し、観劇されていた視覚に障がいのある方が、ご自身でチケットをお買い上げいただき、観劇を継続されるようになった。この変化は、当館がアクセシビリティの向上に向けて取り組みを重ね、多様なニーズに対応した支援や環境整備を進めてきた成果の一つと捉えている。より多くの方が自発的に文化芸術に参加できる環境づくりに成功している恒例として、意義深いと考えている。
・継続的に多様なニーズに応える事業を実施してきた結果、さまざまな障がいを持つお客様の来場が徐々に増加している。そのことに伴い、劇場スタッフの意識にも変化が生まれ、合理的配慮を前提とした対応に関する話し合いや研修への参加が増えている。現在では、具体的なニーズに応じた対応方法についてスタッフ間で共有・検討する会議や打ち合わせを定期的に行っており、劇場全体でアクセシビリティに取り組む体制が整ってきている。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	事業収入、助成金獲得のほか、会員制度の充実化を図っている	-	助成金収入が当初予定を大きく下回ったが、事業収入や会費の獲得とともにコストカットに努めた。	多様な財源確保に努めるとともに、支出の見直しを行うことで、健全な運営につながった。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	会員先行期間の設置のほか、商工会議所等への団体販売にも積極的に取り組んでいる	-	チラシや広報誌、新聞広告による広報のほか、SNSの有料広告を実施した。	SNSの有料広告を展開したことで、ターゲットを絞った広報を行い、結果参加者や来場者増につながったことは有効だったと考える。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	他館との連携に取り組んでいる	-	愛知県内の劇場等と連携した演劇上演の招聘や、広報協力に取り組んだ	広域的な広報活動ができたとともに、連携したことによるノウハウの共有が行えた。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者の豊橋市と毎月総合定例会議を行っている	-	設置者の豊橋市と毎月の総合定例会議のほか、事業単位でも連携に取り組んだ	綿密に連絡調整することで、風通しの良い関係性が構築できていると考える。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	芸術監督を配置している	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	経営実務者を配置している	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	専門人材を確保している	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	職制は整理されている	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	年齢バランスに考慮し、若年層の雇用も行っている	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性の管理職やリーダー職への登用を行っている	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	育児・介護等の支援制度を設けている	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	コンプライアンスの順守に努めている	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	創作現場及び財団職員を対象としたリスペクトトレーニング／ハラスメント研修をおこなっている	対応検討中	研修は実施している。指針等の策定を検討する	職員、創作現場ともに必要な研修を実施しており、健全な環境づくりに努めている		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	適正な契約書の締結を行っている	現状維持	目標は達成している	目標は達成している		

4. 総評

・ 団体の自己評価

穂の国とよはし芸術劇場では、4つのミッションと4つのビジョンを軸に、毎年度の成果と課題を見つめなおし、事業を立案、実施している。
令和6年度は「人材養成事業」のみの採択であったが、各評価項目ごとに設定した評価指標は目標を上回る成果を達成した。

人材養成事業の「高校生と創る演劇」、「若手音楽家育成事業」、「ワークショップファシリテーター養成事業」はいずれも開館2年目の2014年から継続して実施しており、地域における舞台芸術を支える人材の育成に寄与している。さらには、劇場が取り組む様々なワークショップ事業や、視覚に障がいのある方を対象とした舞台説明会など劇場が行うアクセシビリティへの取組等にスタッフとして起用する人材など、劇場の活動をしっかりと支える人材も生まれている。このことは、4つのミッションを達成するとともに、特にビジョンの一つである「舞台芸術の創造活動による、地域を支える人材の養成」の達成に寄与したと考える。

「高校生と創る演劇『Journey Over the Rainbow -ドロシーとワタン』」の参加者について調査したアンケート結果では、過去の「高校生と創る演劇」の上演を見た高校生が本事業に参加した割合が43.6%を占めた。観劇をきっかけに「高校生と創る演劇」に興味を持ち、実際に参加することにまでつながるということはそう簡単なことではないと推測され、長年実績を積んでいる劇場側の経験の蓄積による部分も大きいと考えるとともに、高校生を取り巻く状況を踏まえ、本事業をどのように継続するのが良いかということを検討することは、今後の課題の一つと考えている。

穂の国とよはし芸術劇場では、多様性とアクセシビリティの取り組みとして、当初計画を大きく上回る取り組みを実施した。当館ではここ数年、視覚や聴覚に障がいのある方を対象とした鑑賞サポートに特に力を入れており、徐々に障がいのある方の来館も増加傾向にある。このことと相まって、劇場スタッフの意識にも変化が生まれ、穂の国とよはし芸術劇場として、公演来場者やワークショップ等に参加する市民に対し、こういった取り組みを提供するのが良いかということスタッフ間で共有、検討する会議も定期的に行うとともに、職員が他施設等の研修に参加し、常に新しい情報収集に努めている。今後は劇場がさらにノウハウを蓄積し、さらに多くのニーズに応え、すべての人が舞台芸術・実演芸術に関われるようになる劇場を目指す。

・ 所見